

## 第2回大田区文化振興推進協議会 議事要旨

### 1 開会

日時 令和7年3月19日 13時30分から15時まで

場所 大田区役所5階 庁議室

委員出欠

出席(1)委員 11名

(2)事務局 文化振興課4名

欠席 委員1名

### 2 区長挨拶

鈴木区長より冒頭挨拶

### 3 文化に関する意識調査結果について

事務局から「文化に関する意識調査」及び「ヒアリング調査」結果について説明、意見交換  
(スライド資料は別紙のとおり)

【各委員からの意見】

D 委員

- ・回答率が上がったのはよかったと思う。
- ・問15の回答で「こども向けの鑑賞・体験できる機会を充実させる」・「親子で一緒に鑑賞・体験できる機会をつくる」が多く、子育て世帯の鑑賞機会をどう確保していくか。
- ・区の取組みをどう伝えるか、伝え方が大事。知らないから見ない人が多いのではないか。SNSを通じて活動に行く若者は多い。SNSを活用することで、子育て世帯でも見られる。事業をやっていることがわかれば足を運んでくれる人は多いと思う。そういったところに力を入れるべきではないか。知ってもらうことが何よりも大事。
- ・小学校との連携はいいと思う。様々な文化施設があることを知らないと思う。
- ・教育格差を感じる。貧困世帯へのアプローチは、学校を通じてやった方がいいのではないか。

E 委員

- ・「文化は自然発生的に生まれるもの」。少数派の意見がつぶされやすい時代だが、なるべく途絶えさせないように努力したい。
- ・自分たちの伝統工芸の活動もだんだん世間に認知されてきた。一見地味に思える分野でも、活動を継続していくことでその魅力を伝えることができると思う。ボランティアやサポー

トをしてくれる人が増えてきて、裾野が広がっているのを感じる。活動を継続していくことは容易いことではないが、今後も区と連携しながら活動を継続していきたい。

#### F 委員

- ・高齢者が文化施設を認知しているので、高齢者のフレイル予防に文化活動が非常に有効だと思う。「みる」も文化活動。「みる」・「やる」など文化を通してまちへの愛着が育まれるのではないか。
- ・文化の定義はとても広く、皆さんの文化は身近なところにもあるし、より高いところにもある。まずは文化への関心呼び込むことが必要。
- ・「文化」・「観光」・「産業」はつながっていると思う。

#### L 委員

- ・SNS を活用して、大田区の文化を盛り上げていくのはどうか。
- ・こども向けの施策を展開していくと保護者への広がりもあり得るので必要だと思う。工夫して学校とうまく連携してほしい。

#### I 委員

- ・区内にある看板(サイン)がわかりづらい。蒲田駅を降りた人が、区民ホール・アプリコがどこにあるかすぐわかるような看板があれば、より認知度が向上するのではないか。
- ・情報があれば人は集まる。
- ・人気のある人を呼んで文化芸術への関心を引くために、イベント等を行うのにお金を使ってもいいのではないか。

#### H 委員

- ・Web 回答率はどれくらいだったのか。(事務局回答:3割程度)
- ・問9「過去に活動していたが今は活動していない」と回答した人の割合が多いと感じる。なぜ活動していないのか深掘りすることで、参加・活動に繋げられるかもしれない。
- ・問13「こどもが良質な芸術に触れ、学ぶ機会の創出」は、今後文化振興を進めていくうえで、一番重要なことでありキーワードになると思う。子供たちに大田区の魅力をどう伝えていけるか。
- ・文化振興課単体として取組むとなかなか進まないが、教育分野や産業分野と連携してほしい。
- ・大田区は広くて多様な文化の発信があるまちだと思う。

## G 委員

- ・アンケートの回収数が多い。
- ・アンケート結果からどんな点が不足しているか、関心の有無・鑑賞(活動)の有無などとクロス集計したら面白いと思う。どんな対象の人がどこが課題だと考えているかをまとめるとどういったことに力を入れればいいのかわかる。
- ・情報の発信だけでなく受信も大事。いろんな情報が見れるプラットフォームの構築が必要。

## 副委員長

- ・アンケート結果は回収率がよく、非常にいいデータが集まったと思う。
- ・問6「関心がない」の内訳としては、「文化芸術に触れたけど関心がない」のか「文化芸術に触れる機会がなくて関心がない」のか考えるべきである。後者の場合であれば、行政として手を差し伸べる必要がある。
- ・問8-2、問9-5のデータを他部局と共有することで、文化が社会課題の解決の一助となるのではないかと考える。例えば、生きづらさを感じている人たちに文化行政・文化施設の中で手を差し伸べるのは難しいけれど、福祉やこども食堂、国際交流など生きづらさを感じている人をサポートしている人たちと今回のアンケート結果を共有することで、生きづらさを感じている人たちにも文化を届けることができるのではないか。
- ・文化芸術に触れることで「楽しみ」や「幸せ」、「心身の健康」が増えると考えている人が多いことから、この結果を共有することで、文化芸術に触れたいと思うかもしれない。
- ・問14「観光客や移住者が増える」「地域の商業・経済が活性化する」の割合がすごく低い。全国的に見渡すと、文化を観光や経済活性化に活かそうと考えることが多いが、大田区はそうではない。問14から観光振興への意識が低く、生活者目線に力点を置いた文化施策が大切なんだというのは、面白かった。大田区の特徴ではないかと思う。

## 委員長

- ・関心のない人に文化の価値を知ってもらうことが大事。
- ・問8-2、問9-5で「幸せ」が増えると考えている人がすごく多く、すごいことだと思う。関心のない人は、このような効果があることを知らないのかもしれない。知ってもらうことが大事だと思う。
- ・自分が本当に好きなものは、仕事などを早く終えて見に行くなど行動に移せる。
- ・インバウンドの人たちは、日本の伝統工芸にすごく関心がある。インバウンドへの取組みをきっかけに大田区民が大田区の伝統工芸に関心が高まるとよい。
- ・取組んでいることの成果だけでなく、過程(プロセス)を見せることは必要なこと。若い世代にやってもらうことで、見せ方も工夫し、より多くの人に届く。

## C 委員

・問 10 施設の認知度を向上させるために、義務教育にアプローチするということは、施策にやすく効果を検証しやすい。例えば、小学生や中学生が学校の授業の一環で郷土博物館に行くことを必須にすることで、施設の認知度は確実に高まる。ある学年で施設訪問をマストにするなど、長い目で見て対策を練るとよいのでは。そうすることで地域への愛着にもつながるのではないか。

・例えば、学校から郷土博物館へ来てもらうのと、郷土博物館から各学校へ出向くアウトリーチ事業と両輪でできるといい。

## 4 次期文化振興プランの事業評価の指標について

事務局から説明(スライド資料は別紙のとおり)、意見交換

### 【各委員からの意見】

#### 副委員長

・計画を策定していくうえで、指標の立て方は非常に重要。事業の実施目的・施設の設置目的に即した指標を設定しないと意味がない。目指す政策目標を反映する指標を落とし込んでいく必要がある。

## 5 次期文化振興プラン 体系案について

事務局から次期文化振興プランの体系案について説明

概要:区の上位計画である基本計画に合わせ、計画期間を現行の5年から8年にし、計画期間中に中間見直しを行う予定。施策の柱は4本。施策1「文化芸術機会の創出」、施策2「文化資源の保存活用」、施策3「文化を通じた地域づくり」、施策4「有機的な連携」。

### 【各委員からの意見】

#### 委員長

・施策3「文化を通じた地域づくり」に産業分野との連携を入れてほしい。大田区は「伝統工芸」「ものづくりのまち」というイメージがあるので、大田区らしさを出せるのではないか。

## 6 その他

案件なし

## 7 事務局からの事務連絡

次回の開催日時について

## 8 閉会